

五期俳句会第百五十三回五月六日

大輪の八重の牡丹や寺の庭

塩田亘子

菖蒲湯の香り楽しみ長湯かな

松浦武子

猿沢の池に亀の子塔の影

浅香さとみ

風窓辺一人で啜る新茶かな

今井由紀子

葉ざくらや遠き日の友繋がりぬ

塩田亘子

蔦若葉その意気込みを八十路にも

今井由紀子

雨の立夏外出少しためらわる

浅香さとみ

葉桜や老母引き取る話など

浅香さとみ

桐薫る薄紫の昇り房

松浦武子

季めぐり豌豆うまし玉子とじ

塩田亘子

残雪の伯耆大山目の下に

久貝貞子

山桜控え目なのが好ましい

浅香さとみ

春光の朝から強きひがし窓

塩田亘子

大石楠花咲く寺訪ね山登る

松浦武子

春うらら安来の里の美術館

久貝貞子

コルセット着けて出る街薄暑めく

浅香さとみ

散華舞ふ回向のどかに寺本堂

塩田亘子

笹百合や母の愛せし香と姿

松浦武子

新緑や丸刈りの子の背が伸びて

今井由紀子

冷房も熱気にぬるむ寮歌祭

久貝貞子

何時もは第一月曜に開催されるのが、5日は会場が全館休館で6日となった。その為いつもは火曜がジムがお休みなので、火曜にインプットするのが、合間をみてぼつぼつ入力したが、もうしんどい。

